

Ready Set Go!

よん
どん!

特集

新学習指導要領 「外国語活動」 「外国語科」の解説を 読み解こう

Tips for Activities!

～やってみよう 英語活動～

“Do you have a pen?”

と聞かれたら？

VIVA 100KING!

新学習指導要領「外国語活動」 「外国語科」の解説を読み解こう

平成29年3月に告示された新学習指導要領についての「解説」が6月に公表されました。この「解説」によって、新学習指導要領が意図することの詳細が明らかとなり、また小学校外国語活動・外国語科と中学校外国語科それぞれが扱う範囲についても明示されました。

この「解説」についての着目すべきポイントについて、酒井英樹先生に解説していただきます。

(小学校学習指導要領解説 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm 2017年9月1日現在)

小学校学習指導要領の「外国語活動」と「外国語科」の解説が公表されました。今回の解説においては、中学年外国語活動と高学年外国語科、高学年外国語科と中学校外国語科のつながりを意識した、詳細な説明がなされているのが特徴となっています。本稿では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方、文字の扱い、文法の扱い、国語教育との連携などのポイントについて焦点をあてます。

1. 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

学習指導要領の中で「外国語活動」及び「外国語科」の目標の冒頭は次に示すように表現されています。

「外国語活動」

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

「外国語科」

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは何でしょうか。学習指導要領の中では言及されていませんでしたが、解説では次のように説明されています(「外国語科」p. 9)。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考し

ていくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられる。

ここで示されているように、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であるとしています。この見方・考え方は、「外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え」ることと、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」という部分に分かれ、それぞれ「見方」と「考え方」を示しています。簡単に言ってしまうと、外国語や文化を単なる知識として捉えるのではなく、社会や世界の中でどのように外国語が用いられているのか、また文化が息づいているのかと捉えたり、外国語を媒介して異なる文化背景を持つ他者と関わったりすることの視点が、外国語活動や外国語科特有の見方であることを示しています。また、思考力・判断力・表現力が重視されていますが、ただ考えればよいのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて考えたり、判断したり、表現したりすることが、外国語活動や外国語科で育成すべき考え方であるとしています。

2. 文字の「読み」の指導について

外国語科における「読むこと」の目標「活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする」に関しては、次のように説明されています(「外国語科」p. 19)。

この目標は、活字体で書かれた文字の形の違いを識別し、文字を見てその名称を発音できることを示している。英語の文字には、名称以外に、語の中で用いられる場合の文字が示す音がある。例えば、a や c という文字は、/ei/ や /si:/ という名称があると同時に、語の中では /æ/ (例：bag, apple) や /ei/ (例：station, brave), /s/ (例：circle, city) や /k/ (例：cap, music) という音をもっている。この目標における「読み方」とは、音ではなく、文字の名称の読み方を指していることに留意する必要がある。これは、中学年の外国語活動において、文字の読み方が発音されるのを聞いて、どの文字であるかが分かるようにすることが目標とされていることを踏まえてのものである。(下線部筆者)

ここではまず、英語の文字には名称と音（「おん」と読みます）があると整理されています（「外国語科」p. 27 も参照）。前者はいわゆる文字の名前読みであり、後者は単語の中で文字が示す音のことです（例：apple という単語の中で、a は /æ/ という音を示す。abcd はそれぞれ /æ/, /b/, /k/, /d/ という音をもつことから、この読み方を「アブクド読み」と呼ぶことがある）。この2つの読み方のうち、発音できるように指導するのは、名前読みであることが強調されています。

また、冒頭で述べたように、中学年外国語活動との関連についても述べられています。すなわち、中学年では「聞くこと」において「文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする」ことが目標とされていることと関連して、高学年の目標が設定されていると記されています。したがって、英語の大文字や小文字は、外国語活動では名称を聞いて文字を特定する活動の中で扱われたあとで、高学年外国語科では文字を見て名称を発音できるようにすることが読み取れます。

文字の音の指導はどのようにすればよいのでしょうか。外国語科における「読むこと」の目標イ「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする」について書かれた解説で、次のように説明されています。

(…略…) アで示したように、英語の文字には、名称と音がある。児童が語句や表現の意味が分かるようになるためには、当然のことながらその語句や表現を発音する必要があり、文字の音の読み方は、そのための手掛かりとなる。したがって、ここで示された目標に関して指導する際には、児童の学習の段階に応じて、語の中で用いられる場合の文字が示す音の読み方を指導することとする。その際、中学校で発音と綴りとを関連付けて指導することに留意し、小学校では音声と文字とを関連付ける指導に留めることに留意する必要がある。(下線部筆者)



特に下線部から読み取れることは、アブクド読みを指導してもよいが、児童の学習の段階に応じて指導することと、単語と関連付けて指導することが求められています。つまり、アブクド読みのみを扱うのではなく、apple, bag, car, dog といった語の中で、a, b, c, d という文字がそれぞれ /æ/, /b/, /k/, /d/ という音を示すことを指導するのです。児童が、語句や表現の音声にまだ慣れ親しんでいない状態の場合には、過度に、文字の音の指導をするのは不適切であると示唆しています。

また、冒頭で述べたように、ここでも中学校外国語科との関連が示されています。小学校では、発音と綴りを関連付けて指導するのは適切ではないと明記されています。

3. 動名詞や過去形をどのように扱うのか

学習指導要領が発表されたときに、動名詞や過去形が小学校で扱われることがかなり話題になりました。解説を見てみましょう（「外国語科」p.35）。

小学校の外国語科においては、動名詞や過去形を文から取り出して指導することはしない。例えば、好きなものを伝えるときに、I like playing tennis. と表現することを指導するが、playing tennis の部分に焦点をあてて、動名詞の使い方を理解させ、Playing tennis is fun. などの異なる表現の中で活用することを指導するわけではない。一方、中学校の外国語科においては、動名詞や過去形は「文法事項」として扱われ、使い方の理解を深めると同時に、別の場面や異なる表現の中で活用できるように指導することとしている。(下線部筆者)

特に下線部から読み取れることは、動名詞や過去形は、まとまりのある表現として扱われるということです。好きな「すること」を紹介する際には、I like ~ing. という表現をすることができるとことを学び、自分の伝えたい内容に応じて、I like watching TV. や I like playing the piano. と表現することを指導します。playing baseball が、「野球をすること」という名詞句として用いられることを理解させたり、主語として用いられることを示したりすることはしません。別の場面や異なる表現の中で運用できるように指導するのは、中学校外国語科であると示されています。

4. ローマ字の指導について

解説では、国語科において日本語のローマ字表記が第3学年で指導されていることを踏まえて、外国語活動や外国語科の指導を行うことが示されています。例えば、外国語科の書くことの言語活動(工)「相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動」に関して、次のように解説されています(「外国語科」p. 52)。

なお、名前を書かせる際には、第3学年の国語科において日本語のローマ字表記が指導されていることを踏まえた工夫を行うこととする。例えば、日本語のローマ字表記の知識を活用して、My name is ~. や I am from ~. などの表現など、人名や地名などの固有名詞を含む表現を書き写させるようにするなど、学習のしやすさを促す工夫が考えられる。その際、人名や地名のローマ字表記は英語の中でも用いることを指導するようにする。日本語のローマ字表記については、「ローマ字のつづり方」(昭和29年内閣告示)を踏まえて指導することとなっている。ここでは、「一般に国語を書き表す際には第1表に掲げたつづり方によるものと」し、「従来の慣例をにわかに改めがたい事情にある場合に限り、第2表に掲げたつづり方によっても差し支えない」こととされている。第3学年の国語科においては、第1表(いわゆる訓令式)により、日本語の音が子音と母音の組み合わせ

せで成り立っていることを理解すること、第2表(いわゆるヘボン式と日本式)により、例えばパスポートにおける氏名の記載など、外国の人たちとコミュニケーションを行う際に用いられることが多い表記の仕方を理解することが重視されている。このことを踏まえ、高学年の外国語科においては、国際的な共通語として英語を使用する観点から、できるだけ日本語の原音に近い音を英語を使用する人々に再現してもらうために、第2表に掲げた綴り方のうち、いわゆる「ヘボン式ローマ字」で表記することを指導する。(下線部筆者)

ここでは、国語教育におけるローマ字の指導は訓令式であること、人名や地名などの固有名詞のローマ字表記は英語の中でも用いられることを指導すること、ヘボン式は日本語に近い音を英語を話す人たちに再現してもらうための綴り方であることに留意することが指摘されています。例えば、「ばら」という語をローマ字を用いて bara と表記することを国語教育では扱いますが、その際、「ば」は、b が示す子音と a が示す母音から構成されていることを理解させることが重要であるとしています。また、「ばら」を bara と表記したからといって、英語として用いることはできないことを示すことも必要です。

外国語科における「英語の特徴やきまりに関する事項」の音声に関する解説では、日本語のローマ字表記の指導を踏まえた上で、英語らしい文字の名称の発音を指導することが示されています(「外国語科」p. 24)。国語教育においてローマ字を扱う際には、「『か』を書く時にはk(ケー)とa(エー)と書きます」などと、文字の名称を発音しながら指導することになります。その指導を踏まえると、外国語活動や外国語科において

国語 第3学年

日本語のローマ字表記 (訓令式)



「だ」はdとaの組み合わせで書くのね。

「しずおか」は
Shizuoka になるね。

ヘボン式のローマ字

日本語の名前や地名は英語でも用いることができるんだ。そのとき「しずおか」は Shizuoka と書くんだね。



外国語活動 第3・4学年

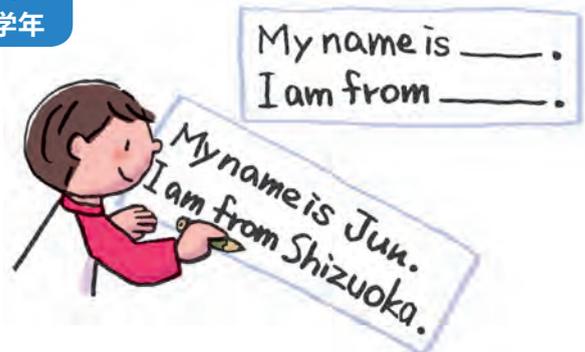
聞くこと

「文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする」



外国語科 第5・6学年

書くことの言語活動(工)





は、日本語の発音である「ケー」や「エー」と、英語の発音である /kei/ や /ei/ との違いを意識する必要があります。

「思考力・判断力・表現力等」
語順を意識すること

本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。(下線部筆者)

5. 語順への「気付き」と「意識」

学習指導要領や解説の中で、「気付き」という表現が数多く使われています。例えば、外国語科の目標の(1)では、次のような目標が示されています。

「知識・技能」で書かれている「語順の違い等の文構造への気付き」と「思考力・判断力・表現力等」で書かれている「語順を意識」することの違いは何でしょうか。解説では、次のように説明されています(「外国語科」p. 39)。

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。(下線部筆者)

また、「語順を意識しながら」とは、文を書く際に、どのように語を並べると自分の伝えたいことが適切に伝わるかを考えることが重要であることを示している。(下線部筆者)

また、上記の下線部については次のように説明されています(「外国語科」p. 12)。

目的・場面・状況等に応じて語順を意識することとは、自分の伝えたい内容をどのように表現すれば適切に伝えられるかを考えることであることがわかります。話す際にはすでに発話したことは残りませんが、書く際には目に見える形で書いた語句が残ります。話す際よりも書く際の方が、語順を意識しやすいと考えられます。

英語の文字や単語などの認識、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、語順の違い等の文構造への気付きなど、言語能力向上の観点から言葉の仕組みの理解などを促す指導が求められる。(下線部筆者)

一方、「思考力・判断力・表現力等」に関しては、次のような目標が示されています。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基



酒井英樹(さかい・ひでき)

信州大学教授。テンブル大学大学院博士課程修了。教育学博士。専門は英語教育学、第二言語習得。中学校英語教科書 NEW CROWN 編集委員。著書に『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』(共著、三省堂)、『小学校外国語活動 基本の「き」』(大修館書店)、『小中連携を意識した中学校英語の改善』(共著、三省堂)がある。

Tips for Activities!

やってみよう
英語活動

子どもの発想を大切にしたいフリーマーケットを開きます。売り手と客に分かれ、買い物の場面を楽しみながら英語コミュニケーションを図りましょう。

フリーマーケットをしよう！

使用するもの

- フリーマーケットで売りたい品物：児童の机に置くことのできる物で3個程度
- 手作りの紙幣：一人30ドル分（10ドル紙幣1枚、5ドル紙幣2枚、2ドル紙幣2枚、1ドル紙幣6枚）×児童数

手順

児童が関心を示すお店屋さんごっこですが、ここでは値段の交渉もできるフリーマーケットに挑戦し、英語コミュニケーション活動を展開しましょう。授業は4時間扱いです。

〈1 時間目〉 数字を50まで英語でカウントできるようにします。数字カードを使いながら、楽しく数える練習をしましょう。

〈2 時間目〉 店での会話に慣れましょう。“Hello.” “May I help you?” “How much is it?” “It’s ○○ dollars.” の表現に慣れ親しみ、買い物ができることを目指します。

〈3 時間目〉 便宜上、使用する紙幣は10、5、2、1ドルの単位にすることを児童と確認します。“I want ○○.” “Here you are.” “Thank you.” といった表現に慣れ親しみます。

〈4 時間目〉 フリーマーケットを開きます。実際に商品を用意し、児童一人ひとりが売り手であり、客でもある形式をとります。クラスの半数が売り手、半数が客になってスタートします。楽しい音楽を流してもよいでしょう。15分で売り手と客が交代します。（買った品物と支払ったお金は、授業後に返却します。）



店でのコミュニケーション活動は次のようにします。

売り手： May I help you?

客： Yes. (指さしながら) How much is it?

売り手： It’s 20 dollars.

客： (高いと思った場合、困った顔をしながら)
It’s too expensive! Discount, please.

売り手： O.K. Fifteen dollars.

客： Thank you.

売り手： (品物を渡しながら) Here you are.
Anything else? (必ず付け加えます)

客： No. / Yes. I want ○○.
(買い終えたら) That’s all.

売り手： Thank you. See you.

客： See you. (別れのあいさつまできちんとと言えるように指導しましょう)

会話に、既習事項である「色」や「形」を入れる児童もいます。指導者は児童が工夫していたことを具体的に褒めましょう。本実践は特別支援学級でもとても好評でした。また、学年全体でフリーマーケットを実施したところ、積極的に英語コミュニケーションを図っていました。



小林省三(こばやし・しょうぞう)

学校法人国本小学校校長。広島県内の中等学校英語科、東京都立小学校、海外日本人学校の教員・校長を経て、現在に至る。大学院修士課程での研究テーマは「特別支援教育外国語活動」。



Expressions

◎ May I help you? / Anything else?

「いらっしゃいませ」「他には何かいかがですか」を積極的に使って、コミュニケーションを図りましょう。

◎ It’s too expensive.

「高すぎる」といった意味ですが、言い方に気を付けること。フリーマーケットでのマナーも理解させるとよいでしょう。

◎ It’s 20 dollars.

標準的な物価と価値から商品の値札をつけるよう指導しましょう。本物の紙幣をコピーすることはいけません。手作りでお願いします。

“Do you have a pen?”と聞かれたら?

外国語を学んでいると、ことばを話すのにどれほど多くの知識が必要であるかを実感させられます。語彙や文法的な正確さはもちろん重要ですが、それらの知識を究めただけでは、必ずしもコミュニケーションをマスターしたことにはなりません。なぜならば、私たちの用いることばは言外の要素（話者の意図、会話の場面など）と切っても切れない関係にあり、正確さだけでは語れないような側面についても理解が必要になってくるためです。語用論はまさにこの言外の要素について論じる分野であり、「コミュニケーション能力」の概念とも深く関わっています。

具体的な英語表現を例にとって考えてみます。“Do you have ...?”という質問に対する“Yes, I do. / No, I don't.”という答えは、文法的には何ら問題がありません。しかし、例えば“Do you have a pen?”——“Yes, I do.”というやりとりは、語用論的な観点からするとあまり適切とは言えません。これが日本語であれば、「ペン持ってる?」「はい、どうぞ」というやりとりがごく自然に成り立つはずですが、英語でも同じことで、“Sure.”と答えてペンを渡してあげるのが、より自然な会話の流れと言えるでしょう。

同様のことが“Do you want ...?”にも当てはまりません。この表現は、文脈によって「申し出」や「誘い」、

さらには「依頼」の働きをすることもあります。例えば、“I'm having a party this weekend. Do you want to come?”という問いには、“Yes, I do.”よりも“Thank you! I'd love to.”と答えるほうがずっと自然に感じられます。

“Do you ...?”で聞かれたことに“Sure.”や“Thank you.”で返す——思えば不思議な話ですが、実際の会話はこのような柔軟な仕組みの下で進められるものなのだと、外国語を指導する際には改めて意識しておく必要があるでしょう。

質問と応答のパターンを機械的に覚えさせるのではなく、「話し手は何を言おうとしているのか」、「なぜそのような伝えかたをするのか」、「どのような答えかたが望ましいのか」を会話の当事者目線で考えさせることにより、場面に応じた適切な言語使用のありかたに関する学習者の意識を高めることができるのではないのでしょうか。

水島梨紗(みずしま・りさ)

札幌学院大学人文学部英語英米文学科准教授。
北海道大学国際広報メディア研究科博士課程修了。
専門は語用論、対人相互行為分析。著書に『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』(共著、三省堂)がある。



VIVA 100KING!



我輩は100KING。100円SHOPは、教材やお助けグッズの宝庫。今回は、トランプを紹介するぞ。

トランプといってもただのトランプではない。サイズの大きなジャンボトランプじゃ。なんとパーティー用品店に行かずとも、100円で買えるんじゃ。

大きさはたて143mm×よこ96mm。一般的なトランプの大きさが89mm×58mmとすると、約1.5倍の大きさ。大きくて見やすいから、教室のいちばん後ろの席からもよく見えるぞ。

数字の導入に使うことはもちろん、前号のTips for Activities!で紹介した、KINGを探す活動にもピッタリ。1～6だけ抜き出して使えば、振る動作のいらぬサイコロ代わりにもなる。使い手はとにかくたくさん。ちゃり～ん。値段は、もちろん100円。また会おう。ふおっふおっふおっ。

協力：ダイソー



通常のトランプ



ジャンボトランプ

2020年、ついに小学校で外国語が教科化
教員を目指す学生はもちろん、現役教員の学び直しにも最適の1冊

小学校で英語を教えるための ミニマム・ エッセンシャルズ

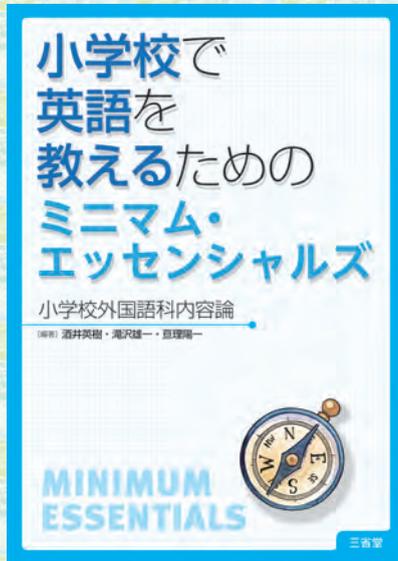
小学校外国語科内容論

[編著]
酒井英樹(代表)・滝沢雄一・亘理陽一



A5判 208頁 定価(本体 1,900円+税)
ISBN 978-4-385-36138-3

指導法だけで十分ですか? 「小学校で育成を目指すコミュニケーション能力って?」「子どもはことばをどう身に付けるの?」「音声、文字、語順って言われるけど英語はどのような特徴の言語?」「児童文学はどう扱ったらよい?」「異文化理解をどう進める?」
これらの疑問に答える専門的知識を概説します。



目次

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 第1章 コミュニケーション能力 | 第9章 英語の文法 |
| 第2章 第二言語習得理論 | 第10章 相互作用の中で生じる発話の意味と働き |
| 第3章 英語の音声 | 第11章 現代社会における英語 |
| 第4章 英語の文字 | 第12章 コーパスの活用 |
| 第5章 英語の発音と綴りの関係 | 第13章 絵本を選ぶ視点 |
| 第6章 英語の書き方 | 第14章 英語教育と国語教育で扱われる児童文学 |
| 第7章 日本語のローマ字表記 | 第15章 異文化理解 |
| 第8章 英語の語彙 | |

三省堂教科書・教材サイト <http://tb.sanseido.co.jp>

三省堂

- 〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14 TEL (03) 3230-9411 (編集)・9412 (営業)
- 大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地 2-5-3 TEL (06) 6341-2177
 - 名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-21-31 協和丸の内ビル 2F TEL (052) 953-9211
 - 九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1 TEL (092) 531-1531
 - 札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15ビル 3F TEL (011) 616-8722

○編集・発行人：北口克彦
○発行所：株式会社三省堂
○印刷所：三省堂印刷株式会社

